



俳諧御傘 三

5
6627
3





















増しと物申しお紙と物と

村

村乃字よ二句多々

多々多と後よりくも二句の  
内と連よ一多ふ面を物入排

よ六七句をとり一紙乃松風  
村多ふといひくも村多二乃

内と後連乃なる一海物  
うら物今し

し

村乃字よ二句位  
それと居る

村多ふと云書物物物物  
多ふとの村を村乃字成り

よ二句多ししりもしり鳥  
しり山多し村乃字なり

あしんも一群乃字なり  
しり山多し村乃字なり

しり山多し村乃字なり  
しり山多し村乃字なり

しり山多し村乃字なり  
しり山多し村乃字なり

しり山多し村乃字なり  
しり山多し村乃字なり

しり山多し村乃字なり  
しり山多し村乃字なり

しり山多し村乃字なり  
しり山多し村乃字なり

しり山多し村乃字なり  
しり山多し村乃字なり

しり山多し村乃字なり  
しり山多し村乃字なり

しり山多し村乃字なり  
しり山多し村乃字なり



新よよわの伝承遠の事乃  
 年々ともなふ所をいへし梅梅の  
 昔遠の人物の事遠昔遠志  
 くやうくし新ふこの酒中  
 遠乃遠くぬくしやう  
 二和よわうらよわをうへ今  
 一より一より三よりこの外  
 余の席あくとく新よわのくも  
 三より三より新よわのくも  
 白くしやうらよわのくも  
 白くしやうらよわのくも

梅 只ま紅梅一冬木一冬梅一  
 紅葉一冬梅紅葉あふく

新式一冬木白梅乃新よわの  
 あくくも新よわのくも  
 理をとりら入るも新よわの  
 新式の梅あくとく梅あくとく  
 一より一より三より新よわの  
 もこの白梅の梅あくとく新式よ  
 るんくも白梅の梅あくとく  
 てんや新よわの梅あくとく  
 梅は新よわの梅あくとく小梅梅  
 は新よわの梅あくとく梅あくとく  
 梅梅あくとく新よわの梅あくとく  
 るんくも白梅の梅あくとく  
 新よわの梅あくとく梅あくとく  
 新よわの梅あくとく梅あくとく  
 新よわの梅あくとく梅あくとく



村 居前より三句しきいり乃

只雲乃一村じつ馬村系も

埋木 他死や紅葉と結く

馬 一駒一駒を久くわたり

駒 一駒一駒を久くわたり

駒 一駒一駒を久くわたり

駒 一駒一駒を久くわたり

駒 一駒一駒を久くわたり

駒 一駒一駒を久くわたり

駒 一駒一駒を久くわたり

駒 一駒一駒を久くわたり

駒 一駒一駒を久くわたり

駒 一駒一駒を久くわたり

駒 一駒一駒を久くわたり

駒 一駒一駒を久くわたり

駒 一駒一駒を久くわたり



夫へくも亦いあも生執乃  
 馬よりうき物よあうき  
 名乃乃物されは連  
 ひ海り物ん乃馬亦とゆり  
 ぬくもあう人へ又三味線乃  
 物伊物山物う寄猫乃人  
 名乃物あきくへ物よ面と  
 へくひ馬へ三句まへこし  
 くのおとく去物とこあん  
 ぬめ小物まをぬくもあ  
 へくもあきくへあうらよ  
 口乃乃門と次又じまわ物  
 環路とじまわの長路長  
 馬物よ七句るれらるしま  
 る物り七句も色ハ色ハあ  
 せん物と後よしへ何い  
 物亦と生執も不物付く  
 もくあうへん

海

乃乃字よ二句も  
 物よ物と物とり  
 況あま光赫乃一字われは  
 じまわよ准くく物よ面  
 と物の況下物然焚ハ灘  
 七句あう

海

生執よ二句馬格  
 とあうらる物と  
 物よきくぬらわ

繪馬

又繪よまぬらる生執  
 ぬらわら物馬物よ物  
 と物あうら馬物乃海子禁  
 中よわれは物あうら



生熟より馬駒より行と  
場

馬場 生熟より二句  
馬駒より面と

きしあなり

馬をいへん 馬乃も  
人倫に生熟

二句馬駒より行と下馬の

外より行ともわろく二句の

きしあなりも十句よりわろ

とありし馬をいへん馬乃も

出たつらうく市も權もよ

ろよりいへん馬乃も

も二句馬駒一産より馬乃外

馬へし行者も馬乃外

馬乃外馬乃外馬乃外

馬乃外馬乃外馬乃外

馬乃外馬乃外馬乃外

馬乃外馬乃外馬乃外

馬乃外馬乃外馬乃外

馬乃外馬乃外馬乃外

馬乃外馬乃外馬乃外

馬乃外馬乃外馬乃外

馬乃外馬乃外馬乃外

馬乃外馬乃外馬乃外

馬乃外馬乃外馬乃外

馬乃外馬乃外馬乃外

馬乃外馬乃外馬乃外



薄

雜るる薄乃る有極物也  
若ふかたの薄生八重

薄るるつひくく薄よ二句

まへへ薄生若ふよ二句

薄るるつひくく薄よ二句  
薄るるつひくく薄よ二句

と新成乃又云といふ義理念息

仕少くさゆへは色より奥よ

わりの句数乃る重なりを

懐懐祇天女速懐 懐向を帯

望之知くはうくひるこさの

い友冬亦二句あくも控

三句とまははるまくく

あつ懐といふ事しあつれし

を若く速懐を向ふもあつ

乃のまははるまくく

あつ懐といふ事しあつれし

懐も懐向も友冬乃のく

一句あくも控二句とまは

きくくくくくくあつ懐

なつ懐といふ事しあつれし

懐向一旬計合く二旬せよ

りふ義の不可得もあつ

速懐を向ふ事しあつれし

の速懐もあつ懐といふ事

同あつ懐といふ事しあつ

あつ懐といふ事しあつ

あつ懐といふ事しあつ

あつ懐といふ事しあつ

あつ懐といふ事しあつ

あつ懐といふ事しあつ

あつ懐といふ事しあつ

あつ懐といふ事しあつ

あつ懐といふ事しあつ

あつ懐といふ事しあつ

あつ懐といふ事しあつ



迷憊よなきとてこころの  
よ懐旧とめくさく人  
を懐に連よめく乃物に  
はるまへ

家の戸

右のよあはる

室こもよれはと煙鏡より  
付くもよれはと煙鏡より  
無漏と名めりしこころ  
あはるは室乃八嶋に  
山本と室乃室よれはと  
通室も同かたは乃室  
室あはるは室の  
とあはる一  
も室のりやれはと  
室あはるは室の  
乃室室あはるは室  
いしあはるは室の  
一はあはる一

ひら乃ま

植物のり室

列の

室乃ま

室乃ま

名室よあはるは室  
室乃室あはるは室  
室乃室あはるは室  
室乃室あはるは室  
室乃室あはるは室  
室乃室あはるは室  
室乃室あはるは室  
室乃室あはるは室  
室乃室あはるは室  
室乃室あはるは室



はつての中よまもくこのる  
とつと中下初中たると  
三はよまあつち物しし一はの  
上よ又上中下初中たのあ  
ゆへちりさこあへく指しを  
まうのちりさくや回す  
よとつと中よまもくこのる  
かち

しんち 本は雑と花と結と  
あ乃ああちち物よあち  
とむしちく二乃あよ又あち  
形ち

しんち 物なるわらさ物  
ちり連よ一乃乃  
物なるしし排しし曉龍  
あんと勢あつひく今一馬

胸乃雲 鳥と龍とほつ物  
お紙と鳥と海物  
よは付くもくちりしし

む糸乃ちり 鳥と長年物  
お紙と鳥と

胸 あちち白神よ  
くはあつち物ししこのる  
胸乃さちちち胸乃ちり

胃の月物のしよさきよつた  
胸乃おちりさくちまき二乃  
あちちれ物ししひまこちん  
しよあちまむ糸乃ちりあちま

とあちちよん付くしし



しるす

しるす ねんこゑるわ難

か

しるす ねんこゑるわ難

しるす

しるす ねんこゑるわ難

しるす ねんこゑるわ難

しるす ねんこゑるわ難

しるす ねんこゑるわ難

しるす ねんこゑるわ難

しるす ねんこゑるわ難

しるす ねんこゑるわ難

しるす ねんこゑるわ難

しるす ねんこゑるわ難

しるす ねんこゑるわ難

しるす ねんこゑるわ難

しるす ねんこゑるわ難

しるす ねんこゑるわ難



成務の跡に八雲のこ

号

鳥 只一也乃君よりうひすと

からしめ今一連よあり

那よひふふあつた金衣きんぎょ

乃當乃あつた乃あつた乃あつた

百子あつた乃あつた乃あつた

てねをうりとりとみ鏡ひり

ももりふり月住慈法乃

乃あつた乃あつた乃あつた

乃あつた乃あつた乃あつた

乃あつた乃あつた乃あつた

乃あつた乃あつた乃あつた

乃あつた乃あつた乃あつた

乃あつた乃あつた乃あつた

乃あつた乃あつた乃あつた

乃あつた乃あつた乃あつた

乃あつた乃あつた乃あつた

乃あつた乃あつた乃あつた

乃あつた乃あつた乃あつた

乃あつた乃あつた乃あつた

乃あつた乃あつた乃あつた

乃あつた乃あつた乃あつた

乃あつた乃あつた乃あつた

乃あつた乃あつた乃あつた

乃あつた乃あつた乃あつた

乃あつた乃あつた乃あつた

乃あつた乃あつた乃あつた

乃あつた乃あつた乃あつた

乃あつた乃あつた乃あつた

乃あつた乃あつた乃あつた

乃あつた乃あつた乃あつた

乃あつた乃あつた乃あつた

乃あつた乃あつた乃あつた

乃あつた乃あつた乃あつた

乃あつた乃あつた乃あつた



うきよ けいふりけいふり  
うきよ けいふりけいふり

とわり新式よんけいふり

うきよ けいふり

うきよ けいふり  
うきよ けいふり

うきよ けいふり

うきよ けいふり  
うきよ けいふり

うきよ けいふり

うきよ けいふり  
うきよ けいふり

うきよ けいふり  
うきよ けいふり

うきよ けいふり

うきよ けいふり

うきよ けいふり

うきよ けいふり  
うきよ けいふり

うきよ けいふり

うきよ けいふり

うきよ けいふり

うきよ けいふり

うきよ けいふり

うきよ けいふり

うきよ けいふり

うきよ けいふり

うきよ けいふり











よのまゝなりとさういふも  
そのまゝも人傷むれば伴路  
物くわらふはなほめりたを  
さういふまゝにねむと懐く  
しそわも恨とて相よあ  
乃うとてけくさういふ物

鶉衣

鶉衣よ毛と加へて  
あつちの羽の染よ入ぬは  
人かん縫さる物なむ  
鶉乃まゝに川ゆへは生  
二の去るわ

浮木

浮木よわく水も  
流よわくをう人  
流く浮木とあらへ  
ふかふ浮木乃流の  
地へうりうり人  
生敷よわく浮木  
物よわく

うさね乃衣

うさね乃衣よ  
着よぬ乃とよ  
およ敷ふよわく  
乃ぬららぬふよわ  
衣よ物よゆき  
これ衣新式目よ  
わらふ物乃  
乃衣と  
余のをしぬ

鶉乃衣

鶉乃衣よわく  
新式乃衣



















力より流るるもつらや  
神枕より肌よと梅らら  
か成らるる肌をまた  
いと成る家ものもへ  
う成りしものもあはれけ  
おしり梅物もへともへ  
なすの程に終る分刻まへ

うすいのま ねよ一はく  
い面をうへてあはれわ

うす物 為乃也物のみ  
よへ字まこころはあ  
乃ももわ衣敷るなり

煙火 ねあしをこころひ乃  
交連よこころは  
離れは行よ一はくあはれ

上乃らま 離れは又あはれ  
うへまかこころは  
髪をく懐くもあはれなり

唇面と梅よ  
う梅 産前こし生屋をく  
あへて居るなり二白

まき  
う梅寝 ねららわ

うららら けあららと  
ねこよあはれ

ねらら ねらら  
敷ち約あし人あはれわこ

見せ侍とらふらあはれ  
ねらら



みづらき原をよびのこ  
らむはばらむのあま  
すおぼも橋さくらわ  
里のあむらねをれも  
橋のらばらむらむら  
約さくわらむらむら  
結くゆあむらむら  
るあむらむら

おぼとむすむら類

らぶこよむらおのま  
二むらむらむらむら  
ても二むらむらむら  
あむらむらむらむら  
あむらむらむらむら  
むらむらむらむらむら  
むらむらむらむらむら  
むらむらむらむらむら

おぼとむすむら類

おぼとむすむら類  
も下むらむらむらむら  
むらむらむらむらむら  
むらむらむらむらむら  
むらむらむらむらむら  
むらむらむらむらむら  
むらむらむらむらむら  
むらむらむらむらむら

おぼとむすむら類

むらむらむらむらむら  
むらむらむらむらむら  
むらむらむらむらむら  
むらむらむらむらむら  
むらむらむらむらむら  
むらむらむらむらむら  
むらむらむらむらむら



く次よりんの花をて發  
は遠句わらへし三句長し  
うぢ  
空は乃花を 林なり  
も花し

# 為

猪 只一離より二ひ印よりあふ  
乃粒若野人かむ名乃粒  
ひつこの美の角の乾を  
乃子あふくわらふらん  
と一より一連より乃一  
句若粒と文字も同  
くれはと敷くも不極各  
別乃粒は相もひるさるれ  
文より一かへ守連より  
海と粒と一ひるさるれ

ゆりおしりく一連一句の物  
と次離結乃阿らわらふ  
とらひくもまもわけと物と  
あま縁も文よ割とへさ  
よわく次連款は流りぬ  
詞半字とぬかしてとて  
あつくも道されしき合の  
端い屋う連款と人さう  
くもかたわらふととれま  
さ家道と連款よ一連一  
句乃粒を二句乃外よせよ  
とゆり守も曲事とめと笑ぬ  
人もゆり守も二をそれと  
愚かもあふゆり















と物々をいふるゆゑにわづらひの  
 白雲と海つとていふはいふに  
 其今もさきもいふとあつた  
 船もいふとさきもいふ船のま  
 らう船と海り船の舟の舟  
 ふいふ今一乃外せすなりと  
 りも詞只と二句とさるれと  
 と海りよはれと船と離よは  
 面を船とさるの字連り二  
 くらり歌よありとの人と離  
 よはれをさるるともありと  
 里山道あり店乃さの類は向  
 し面よありととも不船とら  
 と海り連よは離よは面と人  
 と海りよは海り向ありと  
 離よは二句と離よはありと  
 三のちとららん船よはさるの  
 類とと海りよありとも  
 二句をさるる海り連り  
 甲あれは離よは面をさるる  
 ありと下のちありと海り  
 離よはさるる人さるるさ  
 離よはさるる離よは二句と  
 まりよはまらなくともさる  
 射場あぢさるめ 十月十九日  
 小ちひ射場あぢさ  
 へさるのめ法ありとさる  
 活をさるるめひ射場あぢさ  
 るけさるるさ乃賭あぢらる  
 一賭あぢらるる年一はさる  
 乃お撲あぢさるるさる



カ名

三 仏造乃弁（三）は法令の法  
しき入し 仏造乃はさく  
まは法の神不立統とまは  
新武謙よは信神と一まは  
法神は下は眼は橋あま  
勢よ讀くともこる乃内  
法令の法と法をまは

野乃

二 謙よはこまはこ  
乃内（一）まはあま

野乃乃又村

あまは  
こはは極地よ

二 乃こまはまはこまはの又  
乃内（一）まはあまは  
もはよまはこまはの又  
野もこの人くわはあまは  
とこは極地よ打紙と極地  
又極野もこの又まはこまは  
不成は極野と針ハまは  
毛も極地よ打紙と極地  
のこまはまはあまはの又  
つまの又まはあまはの又  
連のまはあまはの又  
くまはあまはの又  
はまはあまはの又  
まは

野乃

極地よ打紙とまは  
他は極地よ

野よ

二 乃まはこまはの又  
西乃







しあふいふさいのそふふふふて  
し面とゆへしせふふふて  
りふ同ふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふ

野山成屋く まし極物よ  
す紙と極し

野山乃志ふふふ 二句し  
まし極物よ

野山 田と外中極合ふふ  
あふ極しふふふふふ

しと極也と極ふふふふふ  
ふふふと極ふふふふふ

田と外中極合ふふ 二句し  
あふ極しふふふふふ

しと極也と極ふふふふふ  
ふふふと極ふふふふふ

田と外中極合ふふ 二句し  
あふ極しふふふふふ

しと極也と極ふふふふふ  
ふふふと極ふふふふふ

田と外中極合ふふ 二句し  
あふ極しふふふふふ

しと極也と極ふふふふふ  
ふふふと極ふふふふふ

田と外中極合ふふ 二句し  
あふ極しふふふふふ

しと極也と極ふふふふふ  
ふふふと極ふふふふふ

田と外中極合ふふ 二句し  
あふ極しふふふふふ



あし町毎と付い町さうらひく  
あし

野乃宮 湯塚よわらか入  
あし

林祇し君ふし何事かあし  
もかりりよ一燈よ一白し

燈さる文の別極し法極も  
極し燈主人野亭山野燈

野野亭野亭野亭野亭野亭  
火燈水も不ち野の字よ

之句まじ野馬付句燈らわ  
極系乃事し野亭ら君八回

しももららら乃君もまじ  
野乃らぬもまけし付く

ももららららら野亭ら  
く野亭野亭野亭野亭野亭

よま傷と云ふもあまの野  
人と同く野のまよま三

白まらら  
野二野場とらひくま一旅

まよの野場と二もあり乃  
とらららららららららら

一宮乃野亭極の野軒と  
極よ極よい三乃りこ又

飛ねと云詞ありまの野よ  
まきまらららららららら

車と車とららららららら  
んの野まし野うん乃野ま

野とまじ町まらんの声に  
同字まらららららららら  
とれら文字の野まららら



申し花形を居前にわら  
と物三白の糸

軒乃玉のこあ 水色落物なみよ

あつたのちのあつたをゆり  
物うあつたあつたをゆり

ていつひくつたてりし  
よゆりたきくあつたのあ

あつたのあつたもあつた  
同しあつたあつたあつた

のあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた

野のあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた







のころあつこ  
残暑

秋

のころきき  
残菊

秋は九月あつた後  
乃菊とらふしあはれ

のころあつこ  
荷お使

十二月二十凌八  
墓へてくらくと

えあへはるははるの若目な  
えくくもはるの若あいの若  
とりあも山時乃物まわり

以

のころあつこ  
志

只一もあつこは一  
よひあつこはらうと終  
よひあつこはらうと終  
極楽なりぬる人らあつこ

あつこはらうと終  
あつこはらうと終  
あつこはらうと終  
あつこはらうと終

のころあつこ  
志

あつこはらうと終  
あつこはらうと終  
あつこはらうと終  
あつこはらうと終

のころあつこ  
志

あつこはらうと終  
あつこはらうと終  
あつこはらうと終  
あつこはらうと終

のころあつこ  
志







乃とよしとてこもむ人むれ  
おもふ人むれとらば一なるり  
不む門をみ物とてくは連懐  
うらむくは物とて乃亦よ一  
まへしと物とてはとて人  
まへ

親よ老 二句まじい小書よ  
けりたはよ物とて

新式りあまのんま不害  
と信親しむしお然と物  
乃亦よおせりお然と物  
物よ付くなら物しわら  
物もまよ一りあまく種世  
つとて物おしつとて二句まじ  
云と物然と物とて云と同一  
まのの物とて物とて

よま二句まじい不害るり  
物もまらうら物とて  
事ありく物とて物とて  
しとて物とて人むれとて  
ぬむれ物とて物とて  
よまらう物とて物とて  
親連懐よあま

親よ 二句まじい  
他人倫の親り

この竹の子おら付くもく  
あまら物とて物とて  
まらも人倫とて物とて  
親とけりもけり物とて  
物とて物とて物とて



中よもろくもろくにんしん  
下乃句よふと海りちせす  
着<sup>えん</sup>衣乃連袂も潤と袖よ  
着<sup>えん</sup>衣乃後めくふ句よせしれ  
しとこらと離<sup>り</sup>下しはれとえ  
るす二句もろく一同と連袂よ  
只子句よ上句乃ふと海りちの  
下の句と百韻を離<sup>り</sup>下しはれ  
はる衣よや着<sup>えん</sup>衣下<sup>の</sup>句れ  
ふと海りちふ句よ上句と定  
ふり衣<sup>り</sup>しあふと下<sup>の</sup>句  
よめくもろくにんしん  
句よはくく一<sup>の</sup>句とちとあふよ  
しち着<sup>えん</sup>衣<sup>り</sup>ちあふとつとちあ  
せぬも一<sup>の</sup>句と一<sup>の</sup>句も離<sup>り</sup>下  
しはれしはれ乃子句り  
一<sup>の</sup>句せしち離<sup>り</sup>下しはれ乃  
柄<sup>り</sup>るり者乃句ちあふよとあ  
ふしちあふとち百韻は下  
とちあふとちあふと離<sup>り</sup>下  
とちあふとちあふと離<sup>り</sup>下

面歌 只一意を月冠あといふ一

物乃おもひを成とも今一三  
句あふとちあふと離<sup>り</sup>下  
しはれ乃字面の字字二句ま  
るわ離<sup>り</sup>下しはれ乃字字

上あ葉 一松乃あ葉一柳ら

ちあ葉と後よ結とくわ  
とちあ葉と後よ結とくわ  
同しちらとちあ葉の











成は増く不可申通

おはひさ子

善治の物なり  
棟物し一庭一色

那よの意ありし寸し今一

句あり

あひ乃物

急乃物なり  
物よ二句し物の

あひ乃物よみ句るわ

おもしろ地

人編よあし

思ひ感る

お縁とまの思  
字を乃字より

二句まし一庭よ二句の物なり

継よ二句なり

あは

あはゆのなしくま

思乃らみ連よみ句継よ三  
句ましたまがなま

おもしろくしつもの三句ま

連よゆと物な継よ二句ま

しきいあしつなまはくま

てもあはゆのしつなまはくま

ぬまなまはくまはくま

おあひさ子

おあひさ子のあが  
はらまは二句ま

あは

あはゆのなしくま

なまはくまはくまはくま

あはゆのなしくま

あはゆのなしくま

あはゆのなしくま

あはゆのなしくま











うしお海たるやうにうしお  
もあつたかたうしおあつた  
もあつたかたうしおあつた

沖 <sup>おき</sup> 二今一もあつたかたうしお

尾 <sup>おひ</sup> 連はあつたかたうしお  
の連はあつたかたうしお

へふあつたかたうしおあつた  
物もあつたかたうしおあつた  
今一もあつたかたうしおあつた  
西もあつたかたうしおあつた

尾 <sup>おひ</sup> 乃今一もあつたかたうしお  
今一もあつたかたうしおあつた

今一もあつたかたうしおあつた  
今一もあつたかたうしおあつた

大井川 <sup>おおい</sup> 乃今一もあつたかたうしお  
乃今一もあつたかたうしおあつた

條よの井よのわさき  
おひのわさきよのわさき  
乃今一もあつたかたうしおあつた

奥山 <sup>おく</sup> 一今一もあつたかたうしお  
今一もあつたかたうしおあつた

乃今一もあつたかたうしおあつた  
乃今一もあつたかたうしおあつた

奥 <sup>おく</sup> 乃今一もあつたかたうしお  
乃今一もあつたかたうしおあつた

あつたかたうしおあつた  
あつたかたうしおあつた  
あつたかたうしおあつた  
あつたかたうしおあつた  
あつたかたうしおあつた







多門なるも毛正にん惠者  
小龍よりくし之書くぬれども  
尾花と終よ彼心まきりも  
く被作りありまきりも尾乃字  
よ換るまきりも既と非るら  
尾乃字よも花乃字よも  
三句まきりも

わけて回 極福よ二句下  
なす福ら成り

極福よ八句極へくし  
二言より福とくまきり輪と  
まきりわけて回く回地よ  
けり福と心ゆき福と  
まきりひなるとまきりまきり  
つるまきり乃福よあま  
とまきり福と福と福と福と

回を付まきりわけてくまきり  
くけり福とわけて福乃を  
まきりひなると福もわけて回  
も極福よ三句極へくし  
起 福と福と福と福と  
まきり福と福と福と福と

乃福二句まきり福  
まきり福と福と福と福と  
福と福と福と福と福と  
福と福と福と福と福と  
福と福と福と福と福と

福の字 福と福と福と  
福と福と福と福と

福と福と福と福と











目雲々 只一月後よりよ  
又一人し 船よ

い密乃打早人 今も月心な  
とあくら 今も人

眼目雲 雲雲花おの  
勢あよ ひと けくも

くも 一あり 船  
雲とあま 船り六二句ま

清くも 同 せよ 果し  
二句ま 候物 二句

雲井 大月あり  
ひらき 物

二句ま 船り  
中の人 致人 乃

雲井 白ふり 内裏  
はら けす 雲の

車と 色 候物 雲  
二句ま 乃 雲

と 一回 雲  
雲へ 雲 乃

乃 雲 雲  
の 雲 雲

乃 雲 雲  
乃 雲 雲

乃 雲 雲  
乃 雲 雲

乃 雲 雲  
乃 雲 雲







三句云く花の草は庭長  
るわ極花よ二句るりゆわ  
らし梅香るる草乃りり草  
乃さるるに朽と腐かをさる  
草乃花も同多草中と極と  
さる可も極花よあらんさ  
よさるれ極花小成之花を  
草乃花人極よ二句るり草中  
云いさるる乃草一

草中花 極花の妻とさるれ  
新多し非籍草中の

遠草花遠皆回一も一  
草乃原 野よさるるらん

草中花 極し連よ二句妻  
極るりあよほは

草中花 乃草一草乃の字  
いすすしと野乃花又野  
花るもあつた離る二句の  
同花よ乃草小極花  
欠とさるる一妻乃花よも極の  
花よも有之依る花言故  
乃分別も一

草中花 云句小 萩乃女  
横小車 格授つまうとめん  
美草白木村へく一戻回さる

草中花 乃草一草乃の字  
いすすしと野乃花又野  
花るもあつた離る二句の  
同花よ乃草小極花  
欠とさるる一妻乃花よも極の  
花よも有之依る花言故  
乃分別も一

草中花 野色田の子種  
乃草一草乃の字  
いすすしと野乃花又野  
花るもあつた離る二句の  
同花よ乃草小極花  
欠とさるる一妻乃花よも極の  
花よも有之依る花言故  
乃分別も一







極物一三句 乃字よ三句  
るなり 水草の伝 三句よ三句  
時と極物るなり 極乃字よ三句  
わらう 乃字よ三句よ三句よ三句

くらしきよき言 二句よ三句  
不道思まを付句と極や三句  
二句よ三句よ三句よ三句よ三句

くらしきよき言 二句よ三句  
乃らうきよき言乃らうきよき言  
乃らうきよき言乃らうきよき言  
乃らうきよき言乃らうきよき言

くらしきよき言 二句よ三句  
乃らうきよき言乃らうきよき言  
乃らうきよき言乃らうきよき言

乃らうきよき言乃らうきよき言  
乃らうきよき言乃らうきよき言  
乃らうきよき言乃らうきよき言

くらしきよき言乃らうきよき言  
乃らうきよき言乃らうきよき言

乃らうきよき言乃らうきよき言  
乃らうきよき言乃らうきよき言  
乃らうきよき言乃らうきよき言

油 山類るなり 一三句 一三句の物  
乃らうきよき言乃らうきよき言

乃らうきよき言乃らうきよき言  
乃らうきよき言乃らうきよき言

乃らうきよき言乃らうきよき言  
乃らうきよき言乃らうきよき言  
乃らうきよき言乃らうきよき言







神速りあししぬ人毎交  
ひるのまじしとあやまりる  
毛ひ道乃弟一かんたし

國乃若とあ乃若 下乃海  
白排

まひ二乃ま

國の若とりんは 下乃海打紙  
つと新式

排し同あまのふとあつ  
けくはらりかす寸打紙  
とへ編るわ二乃まの物と  
付申しうしきれを二乃  
ましき色打紙をきく  
二乃まあしつてくはらり

しき色打紙をきく  
しき色打紙をきく  
しき色打紙をきく  
しき色打紙をきく  
しき色打紙をきく  
しき色打紙をきく  
しき色打紙をきく  
しき色打紙をきく  
しき色打紙をきく  
しき色打紙をきく

しき色打紙をきく  
しき色打紙をきく  
しき色打紙をきく  
しき色打紙をきく  
しき色打紙をきく  
しき色打紙をきく  
しき色打紙をきく  
しき色打紙をきく  
しき色打紙をきく  
しき色打紙をきく

國乃海 名前を新式より

のしき色打紙をきく  
のしき色打紙をきく  
のしき色打紙をきく  
のしき色打紙をきく  
のしき色打紙をきく  
のしき色打紙をきく  
のしき色打紙をきく  
のしき色打紙をきく  
のしき色打紙をきく  
のしき色打紙をきく



るりし玉乃名もも名保中も  
三白ちりき事申し御りま  
二白ゆきま

くれけのあに 穂穂と如  
草本よ二

白竹のあまのし

精 那よ二あると馬摺ひ

精 亦よあると

草 二白きり又の字よ二

乃高幸一の草より又附ふよ

二白ちりき事よりあるとも二白

まるとあると 亦よ同附

し草よあると

くくきと 草よあると

あくと不可し判らるる

も 實途乃もし徳もあ

くくきよあると同し

生免也其乃言と伝も

實途と言の草よあると

あくと不可し判らるる

流乃草よあると

くくきよあると

草よあると

も 草のあると

も 草のあると

も 草のあると

も 草のあると







らんりも報し業推るも同

あ

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり







在酒屋又とわくと新ひり  
續くともとれし一屋又のよ  
成し鳥屋を別し一既乃字を  
成に七の字を宿屋とわ屋孫に  
まゝ又の字を家より六の字  
を

柳 只一葉柳一秋乃乃乃に  
一柳よ八の柳よ柳の柳或の

楊柳欽る柳下魚柳堂  
柳又或の柳楊柳を浦柳乃  
あるとあるよ一ありのよ  
乃柳よもふと為難之極物よ  
ありは位は内柳乃ありは品  
はよありは只柳の法よあり  
ありとありは柳よまゝ極物

柳の先は法外西海際  
色よ清あおと柳と極  
ら柳より乃名よせし  
名はよ准しく極物よ二の  
為入るまゝありのよ  
向ふま長と位も乃乃下  
天正乃乃の二の法は  
方物よも名ありよも入  
めり名はよ小ありのよ  
乃類とありは合よのよ  
上片回合乃乃ありのよ  
系物乃ありはあり又あり  
同し西洞院道乃末より柳  
乃水とありのよ水とあり  
とありのよありはあり



あぬ初く人ふ初くうも  
きしり名はよとて海もき道  
理これら記次他を産乃家通  
深きあうへと世乃詞よ  
物を柳よ産もとまて又柳  
登とまも一留種物とまて  
柳田乃内と入産うととま  
も揚枝末の齒ともとま  
産も柳乃字よ付白汁と  
産と種物よもまてとわ  
次はは柳種とま付とまとも  
見とわはつらと付とま  
とまてとま産も不斗然柳  
よ産と産とまとまて柳りり  
し物状とわ産のなまれりり

数乃多とて産とまてとまて

同と産とまてとまてとまて  
と一とらららとととととと  
と産とまてとまてとまてと  
と一と産とまてとまてとまて  
世と一と産とまてとまてとまて  
誤とら産とまてとまてとまて  
とととととととととととと  
も何と産とまてとまてとまて  
同とと産とまてとまてとまて  
付とら産とまてとまてとまて  
時次とととととととととと  
人産とまてとまてとまてと  
可と後ととととととととと  
とと連産と一と産と一とと



辨りの教を教くしりて教  
入向ふありん教力教を  
乃内今一向より心二句  
教をくしん教風と云業権  
乃其れもも同あ

第一 年乃矢一連ふ二あり  
と辨一の矢と云く矢三  
矢と云く矢三矢三の教乃  
辨云今一教と云くあり

山城のつと云く河のつと  
城と連りひと云くつと  
非と今一と云く辨一のつ  
と云くつと云くつと云く

今一もわらるるわつと云く  
つと云くつと云くつと云く  
つと云くつと云くつと云く  
つと云くつと云くつと云く

つと云くつと云くつと云く  
つと云くつと云くつと云く  
つと云くつと云くつと云く  
つと云くつと云くつと云く

山 辨 雑山類は山紙と書  
山紙のつと云く山紙と書  
雑山紙と云く山紙と書

山 類 山類はあり山字は  
山字のつと云く山字と書  
山字と云く山字と書

山 類 山類はあり山字は  
山字のつと云く山字と書  
山字と云く山字と書







うしろに積りて小倉乃石  
身とねかしくも成るしと  
甲斐の山に積りし山乃石  
山後を頼りて山乃石  
山乃石の山に積りし山乃石  
山乃石の山に積りし山乃石  
山乃石の山に積りし山乃石

山と山  
山乃石の山に積りし山乃石

山乃石  
山乃石の山に積りし山乃石

山乃石  
山乃石の山に積りし山乃石

山乃石  
山乃石の山に積りし山乃石

山乃石の山に積りし山乃石  
山乃石の山に積りし山乃石  
山乃石の山に積りし山乃石  
山乃石の山に積りし山乃石  
山乃石の山に積りし山乃石  
山乃石の山に積りし山乃石  
山乃石の山に積りし山乃石  
山乃石の山に積りし山乃石

山乃石  
山乃石の山に積りし山乃石

山乃石  
山乃石の山に積りし山乃石

山乃石  
山乃石の山に積りし山乃石







よむらきくぬ

山乃久野のちる草は茂も

紅葉とみゆもこのころ紅葉

よむらきくぬと郷に入せむ

うら

山

よむらきくぬと郷に入せむ

あつたふらふらとあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた











あつらひのあつらひし松乃字は  
二句なり

松風 松乃風とつひく  
二世の文は不介

ても二あふへ一の文と  
あつらひの二不可有連

くのおとく離よせう風  
と移よつひくと一と二

遷よあつらひ乃松乃松風  
と三乃也

松風乃何ぬ きのを  
加ふ松乃

二句可極松風乃何ぬ  
松乃よるよるなるなる

とねとれ松乃新式は洞の  
何とれ松乃新式は洞の

とつへも人思ふ不審と人き  
義あつらひ松乃一人一洞の

ぬと松乃松乃不極何ぬ  
冬ふらつらつ梅乃松乃七

きつぬと松乃松乃不極  
あつらひと可知し道理あり

くも松乃松乃不極  
松

松風乃ぬ ぬよ面離り  
七句き松乃

二句松乃なり  
松乃松 同ひ松風松乃

松乃松 二句松乃なり  
松乃松 離れ松乃松乃

松乃松 離れ松乃松乃  
松乃松 松乃松乃松乃



録もあもまとのねとる理  
あつてはささくわくは其録の  
及かぬ海くくらのとらこちと  
ふのあつては其録のわら  
とらあつては其録のわら  
不可信也

松乃也 百年よ一度はく  
松乃也 松乃の物まらり  
正氣よあつて

松乃也 さいさ物なり二句  
松乃也 松乃の物まらり  
松乃也 松乃の物まらり

松乃也 松乃の物まらり  
松乃也 松乃の物まらり  
松乃也 松乃の物まらり  
松乃也 松乃の物まらり

松乃也 松乃の物まらり  
松乃也 松乃の物まらり  
松乃也 松乃の物まらり  
松乃也 松乃の物まらり

松乃也 松乃の物まらり  
松乃也 松乃の物まらり  
松乃也 松乃の物まらり  
松乃也 松乃の物まらり



「つりくつ」の種物より一の  
ま漬まき者名の意を玉松  
の海乃敷と非種物正月の  
松難入物より二の人名よ  
云松入木のよあては松葉  
乃級乃ま竹も海よま松も  
回お音の名乃松板も回お  
正月の門まを根よりしし  
葉の海乃級物されとま  
かの種物より子乃日れま  
と同

松膠 種物よりわく次松うま  
かさとの不同あり 同云やめ  
そ糸のよめりしありりもの  
奥

松乃成ふもまの葉葉も種  
物もまの焼くも同あり  
なり一統よまの種物より  
ありしつりやうしし  
葉とのまのりともま  
とひし種物よりし  
序次上松葉とまの葉葉  
るれまを志し松まを  
てまの種物より種物より  
るゆしはるまの巨細成ま  
ゆしそ阿乃字通次あり  
と入し松しりまの  
乃名は種物よりわく次松成  
松子松乃まといし



して葛よみふさけりのるれは  
根本のくちか物るれは根物

難 難よの二重方底の難まのきり  
難 難よの二重方底の難まのきり

物

二難よの二重方底の難まのきり

るり根物まふさけりのるれは  
てまとの肉を約乃空のま  
りすち約空のむいく月  
もあちへ一連よ約空のま  
り約空も約空乃むあちへ  
二乃外ま今一あちへまはさ  
せりむさうくそれあちへま  
降降起ふもしこそれぬの  
あぬ乃まはさぬあちへの難  
不才は割

株

株 株物おもま敷くもまの  
株 まふさけ二句はく馬株ま

一連おもむくとあちへまはさ  
せりむさうく

物

物 ぶらまのふまき一物音  
物のいづのまはさけりまはさ

名はまありあちへまはさ  
せりむさうく

むさけりあちへまはさ  
せりむさうく

精

精 ぶらまのふまき一物音  
精 まふさけ二句はく馬株ま

白可物 良本のあちへまはさ  
せりむさうく

根物 根物のまはさけりまはさ  
せりむさうく











又此鏡も若くは結衣乃事  
とらむにあり葉も桂もわ  
ららむにあり丸もいりわと  
結るれはきこふし結葉も  
物りしきくはくくもに  
ある結る別は結葉も  
のきこふにありわら  
取もらわらむにあり  
葉も成るはまきと本  
結るらちちあわらむに  
葉に本乃結葉の結  
よきも成るにありわら  
し結るは結も成るに  
取もらわらむにあり  
結衣尚後世の結衣  
結衣尚後世の結衣  
結衣尚後世の結衣  
結衣尚後世の結衣  
結衣尚後世の結衣  
結衣尚後世の結衣  
結衣尚後世の結衣  
結衣尚後世の結衣  
結衣尚後世の結衣  
結衣尚後世の結衣

鞠乃少は 庭乃心

式よらむにあり連は庭  
鞠乃庭をさけむにあり  
離よの今一あり物も  
あわと極くはあり物  
も庭乃庭なあり物  
おもすは結るは結る



杉東よとあつとも又高阿を  
あやしくもくはの場乃字  
乃心あふぬち新式より  
一森あむ離よなまありを  
あつはるのふいんを  
座と湯乃始もくふの  
あよしくつら

ふふふ  
二白きこふかあ

始とさつせり初をま  
新式をのこつたりの  
あつとも道理よあつと  
あふあふあつたれま  
ま始も離よのふいん  
はと又あつたれま

美彦

あつとも  
川とあつと或る編  
あつとも或るあつとも  
あつともあつとも

眉乃あね

あつとも  
あつともあつとも  
あつともあつとも

山眉柳の眉整乃眉乃  
ついの眉とあつとも  
あつともあつとも  
あつともあつとも  
あつともあつとも  
あつともあつとも  
あつともあつとも



まゝに後海とんじ 海

海とんじ 海

海とんじ 海

海とんじ 海

海とんじ 海

松尾家 白

今日

今日 二

今日 三

今日 四

今日 五

今日 六

今日 七

今日 八

今日 九



















よの二句と首よの依句律一切  
不為但悔らあしふとの類  
よのむくし二句悔らり年  
とある月を悔らかりし又  
字制され依句律二句悔  
けりよの悔らりし面八句此  
たつていふやあしふく

友

只一友京一季まどうく  
一但まどうく又可首

事しき句やとましく新武蔵  
加は連し地乃まの友らり  
てま乃友と友京氏とをま  
二句の物く寸離し一他乃  
乃友悔らら友友法不友教  
友らら友衣友布友乃  
乃也今一ありく二句乃物  
又どうと終よ讀友よも不  
回あり友入細く友言相を  
友友友きくの人か友友友  
友氏乃也よ成く友京物も  
友京氏の中るら友言く友  
三つとも回あり友友京氏と  
お務し終よ讀も一症二句の  
物くは言わとくゆへに友友京氏  
友京の物難く友友友友友  
小よよ友友友らるら友連  
誰よの悔らあしふく公京に  
又物をまうとくとく物あり友  
乃字をくけた友友友と友  
て物物ありあし友友友  
もあし友友三のあし



又 忘よ一様よ一文学よよそ  
玉手子三白乃内より排

よの意あつても様あつても  
文学あつても三乃亦り今

あんと致はは徳うあこし皆  
料をの極ちて新式は文学

とあつてもあつてもは文学と  
まよふ又乃あつてもあつても

事し玉手子よとあつてもあつても  
人あつてもあつてもあつても

かあつてもあつてもあつても  
あつてもあつてもあつても

あつてもあつてもあつても  
あつてもあつてもあつても

あつてもあつてもあつても  
あつてもあつてもあつても

あつてもあつてもあつても  
あつてもあつてもあつても

あつてもあつてもあつても  
あつてもあつてもあつても

あつてもあつてもあつても  
あつてもあつてもあつても

あつてもあつてもあつても  
あつてもあつてもあつても

あつてもあつてもあつても  
あつてもあつてもあつても

あつてもあつてもあつても  
あつてもあつてもあつても

あつてもあつてもあつても  
あつてもあつてもあつても



なるものお家と非人備と  
 かつせし波浮喝合ふは作茶  
 坊自野休山休入道おまて  
 小波つら門をけは浮論  
 か来ぬよ備乃字計せ人備  
 よせぬし新式人備よわぬ備  
 とおせらる九備よわらふ  
 珠若賢親言勝む乃熟を  
 尸に仏法備を三書六と号す  
 此備乃中と備乃字付くも  
 小備取備幸りり備貧備乃  
 類ち若人備さり備正備於  
 ろとら友若るれし人備り  
 わら次退き進履を始め古八  
 祖に外信家の并山希真山  
 乃あはすた大神号 小神号  
 善履号とて後うありとあり  
 おあさ不可入人備と新式  
 乃ん備と知りありとあり  
 若るの備さりた大神号回  
 作号とてありと備さ人備  
 よきしひあはるふとて  
 乃又あはも又乃字よわら  
 衆物とら百重毛現をこ但修  
 茶田雲修さしと付くもら  
 乃寸又年号人あ若ると  
 乃めん乃字よら田雲毛現を  
 もらるしあはすの東のえと  
 長らありと虫孫虫孫乃と  
 と平備と又字乃又よ中あひ  
 乃字不可付るれも別の衆  
 能を学ふとせしとらわら付







世に終るは傳ふ乃字よせむ  
今一書よよむ向ふ又月の色  
今一書よよむ向ふし学まふ  
久らしくおぼせむ又向乃月  
成しとて又文書のつらね又  
とらりけしとてあふむ  
素筆の字よよむしとて  
あふむ

筆

只一筆よよむ乃月  
筆よよむむむむむむ

今一書よよむ向ふし学まふ

筆乃月

筆乃月乃月乃月乃月  
筆乃月乃月乃月乃月

あふむむむむむむむむむ

乃月乃月乃月乃月乃月

乃月乃月乃月乃月乃月

乃月乃月乃月乃月乃月

乃月乃月乃月乃月乃月

乃月乃月乃月乃月乃月

海

海吹よよむむむむむむ

吹よよむむむむむむむむ

吹よよむむむむむむむむ

吹よよむむむむむむむむ

吹よよむむむむむむむむ

海乃字

海乃字乃字乃字乃字乃字















悔の歌 念衣古之枕 其よき

ふあきしるゝ思乃るゝよしあに

あきしるゝ思乃るゝよしあに

あきしるゝ思乃るゝよしあに

あきしるゝ思乃るゝよしあに

あきしるゝ思乃るゝよしあに

あきしるゝ思乃るゝよしあに

あきしるゝ思乃るゝよしあに

あきしるゝ思乃るゝよしあに

あきしるゝ思乃るゝよしあに

あきしるゝ思乃るゝよしあに

あきしるゝ思乃るゝよしあに

あきしるゝ思乃るゝよしあに

あきしるゝ思乃るゝよしあに

あきしるゝ思乃るゝよしあに

あきしるゝ思乃るゝよしあに

あきしるゝ思乃るゝよしあに

あきしるゝ思乃るゝよしあに

あきしるゝ思乃るゝよしあに

あきしるゝ思乃るゝよしあに

あきしるゝ思乃るゝよしあに

あきしるゝ思乃るゝよしあに

あきしるゝ思乃るゝよしあに

あきしるゝ思乃るゝよしあに

あきしるゝ思乃るゝよしあに

あきしるゝ思乃るゝよしあに







右へ身ふち物されしうら  
乃本指乃春と二句と入  
申し本指よ本乃字二句去  
し本のるあけきよあ  
つひくも回あこもへ  
字別よあきし竹のうら  
ゆしとて風指よ二句ま  
を言換よ本よも指よも  
と始とえいそ湯秋本の  
うら指とゆしとて  
指よ本指よ本のうら指本  
古本あうらゆとゆし指と  
字けよら二句とてしれも人  
ぬ乃くあゆれなゆり  
二句とゆりも何と離乃字  
とあゆり本指とあゆり  
指乃白ゆもあゆらぬ  
吹ゆかわ

あ

あゆりもつひく  
ゆ又一あり離よ  
ゆいふもゆいふ二ひや  
意暮と替よ今一ゆと  
意乃白ゆゆていあゆら  
連よも今一ゆゆていあ  
と二ありふていあ連乃  
とていあ乃白ゆゆ今一  
可もていあ乃字ゆと一  
面白わゆゆとあゆら  
意乃白ゆゆいあ乃字二  
ゆゆていあ三句乃内一  
ゆゆていあ歎の意も  
ゆゆ







わさつた新式よふ別とへ  
 物乃而よあ方よ下は  
 分ゆるわ昔等も本乃葉の  
 者乃毎よあてるとして  
 ろうれはゆきとたふとゆ  
 毎内ゆつとふ乃成ふしとゆ  
 ちゆゆきともあまると免角  
 ぬまへ種物乃内よつと  
 又つとゆわをわら月の中  
 平ねと支の白された種物  
 よさつとてゆわ新式  
 後どらう人ち種のみは  
 皆あまゆとつありま  
 新式乃るるとおもはゆ  
 一と成乃さつとあさ  
 旅の機よへ入るゆき  
 深るわ解よ新式を可  
 月

木乃成不夜

極物おも夜敷  
おもたよ之白

冬るわ

心乃花

まるり心花るわ  
人種よ二白なり

詞の可

無物乃可まふ  
詞とて可まふ

同えん乃花詞の可何乃り  
 ちわあわわく種やう詞  
 ねるもく昔も人の心も  
 ちうさつちやうまれとふ乃  
 可まふ可まふ一ねるなり詞  
 乃可らうゆく無言した人  
 の考よと種やうふりさわ



てまのりふ詞をいへし心はよ  
かしくさゆにきき物云詞の  
ひまふさしゆとていふま  
今系約すしまよ見し一ふ  
よいこのあしきありて又  
一ふよいまよありて又  
つとあはれおぼえたり物成り  
まよありて又とあまて物の  
穿り發せし不許いぬ

六重

あつりて又其君を  
よありて又若依よあ

組と約乃日名名と連よ約  
よ約と始し御りし面と始  
なり九重あつりて又これ  
小一ありて又約を久九重  
九重のなると一ありて約り  
九文字のなると一ありてこの  
和よ續く二と八と重なる  
字乃月名とつりて又あり  
急よりさ約もとまよのいふ  
まて文字の同しられた急よ  
おまよとまよのつりて又あり  
一ありて又約を久九重  
面と始しつりて又あり  
と云詞のつりて又あり  
あとかさあつりてよ重なる  
勢よしむ阿あつりて又あり  
てりらつりて又約を久九重  
もおまよとまよのつりて又  
おまよと約を久九重と約  
詞一しよの重なるつりて又あり  
とひあよありて又あり



























心乃月 難く非難ふ人なき

あふたりのもあてて西乃月  
とささくせくまらるるしかり

心乃言 非難分懸りしを  
さしす親乃子を

あふたりの入り又志乃の  
もあつとくく息乃乃の

心乃友 依り非難人備ふ  
はまもも分あつて人

心乃友 依り非難人備ふ  
はまもも分あつて人

あつて人備ふとくく  
あつて人備ふとくく

あつて人備ふとくく  
あつて人備ふとくく

あつて人備ふとくく  
あつて人備ふとくく

あつて人備ふとくく  
あつて人備ふとくく

急乃事 非難約一具急乃事  
はまもも分あつて人

あつて人備ふとくく  
あつて人備ふとくく

衣乃衣 衣乃衣  
あつて人備ふとくく

衣乃衣 衣乃衣  
あつて人備ふとくく

衣乃衣 衣乃衣  
あつて人備ふとくく



わがまをさへもつとつてはまの  
まよふまの衣敷と

昔の道

徳物しつとつてはまの  
新まの道なりとあり

昔の道

徳物しつとつてはまの  
新まの道なりとあり

昔の道

徳物しつとつてはまの  
新まの道なりとあり

昔の道しつとつてはまの  
新まの道なりとあり

昔の道しつとつてはまの  
新まの道なりとあり

昔の道しつとつてはまの  
新まの道なりとあり

昔の道しつとつてはまの  
新まの道なりとあり

昔の道しつとつてはまの  
新まの道なりとあり

意匠馬心乃猿

走は非生類  
ニありし人

乃の意匠馬心乃猿  
走は非生類ニありし人

乃の意匠馬心乃猿  
走は非生類ニありし人

乃の意匠馬心乃猿  
走は非生類ニありし人

乃の意匠馬心乃猿  
走は非生類ニありし人

乃の意匠馬心乃猿  
走は非生類ニありし人

乃の意匠馬心乃猿  
走は非生類ニありし人

乃の意匠馬心乃猿  
走は非生類ニありし人

乃の意匠馬心乃猿  
走は非生類ニありし人

乃の意匠馬心乃猿  
走は非生類ニありし人

乃の意匠馬心乃猿  
走は非生類ニありし人

乃の意匠馬心乃猿  
走は非生類ニありし人

乃の意匠馬心乃猿  
走は非生類ニありし人



去表と為人一魂魄と替り  
つゝも回あ靈乃字も回あ  
他靈山よりよみぬもく  
うし

いぬ 飛西こくひ物り  
飛西よあし

均等原よ 小乃字不極小の  
字とあし

均等原とまじけり  
字りハ二句まじけり

字まじけり  
可はあしとけり

紙語 名原よ二句極る  
越海と入し之句ま

紙語 越海と入し之句ま

越語よ 越語も打越語と  
極小あし

去今今年 一白けあり  
那よまき

去今今年 一白けあり

去今今年 一白けあり

今今小 と日今とま字た  
よ不極

子 継よハみあらし皆西を  
まこし

人備あり親とまは  
迷懐ありそれも親

乃あしと親とあし











よき事をいふは次とのりて  
 是よりいふはついでに  
 初は乃人ち氣味らうのわ  
 ぬきて付交白とえ付ぬぬ  
 連珠とくはるる命よとく  
 成るわ釣後とえ来んぬよ  
 里かぬぬとくはるる命よとく  
 吹漂りの紅頭よとく見ん乃  
 くの何とくはるる命よとく  
 吹よ新式よとく是の目よ  
 不火ぬとく是よとくはるる  
 法よとくはるる命よとく  
 されし連珠とくはるる命よ  
 真おまよとのこ物合の命  
 乃修海とくはるる命よとく  
 あれとくはるる命よとく  
 合るわぬとくはるる命よ  
 しぬりしはとくはるる命よ  
 へさばとくはるる命よとく  
 実るわとくはるる命よとく  
 お思成らとくはるる命よ

洗水

洗水は水とてはるる命よ

洗水は水とてはるる命よ  
 ひくは洗とてはるる命よ  
 名から

てふはの字

ね合とてはるる命よ

洗水は水とてはるる命よ  
 洗水は水とてはるる命よ  
 洗水は水とてはるる命よ  
 洗水は水とてはるる命よ



山よみわらむと云ふよいてと海り  
 乃と白と木村又あやののと白  
 一松乃松の明をのちまうく  
 月をのちまうくは洞しん重  
 ちぬあしと松乃松わよてと字  
 ととて入るく次と云義としての字  
 小うとて入るくと云字小又字の  
 し松字皆回お松又てととて  
 ちぬあしと松乃松わよてと字  
 乃と白と木村又あやののと白  
 一松乃松の明をのちまうく  
 月をのちまうくは洞しん重  
 ちぬあしと松乃松わよてと字  
 ととて入るく次と云義としての字  
 小うとて入るくと云字小又字の  
 し松字皆回お松又てととて

事わらむと云ふよいてと海り  
 乃と白と木村又あやののと白  
 一松乃松の明をのちまうく  
 月をのちまうくは洞しん重  
 ちぬあしと松乃松わよてと字  
 ととて入るく次と云義としての字  
 小うとて入るくと云字小又字の  
 し松字皆回お松又てととて

釣庭家釣之親行舟日

釣ね小釣ね釣魚

あり次わらむと云ふよいてと海り  
 乃と白と木村又あやののと白  
 一松乃松の明をのちまうく  
 月をのちまうくは洞しん重  
 ちぬあしと松乃松わよてと字  
 ととて入るく次と云義としての字  
 小うとて入るくと云字小又字の  
 し松字皆回お松又てととて

乃乃字

乃乃字  
 乃乃字  
 乃乃字







